

1 学校関係者評議委員

- | | |
|---------------------|----------------------|
| ・今西 光昭 氏（学校運営協議会会長） | ・西原 泰介 氏（学校運営協議会副会長） |
| ・真鍋 智明 氏（学校運営協議会委員） | ・秦 典生 氏（学校運営協議会委員） |
| ・石川 武博 氏（学校運営協議会委員） | ・原 寿也 氏（学校運営協議会委員） |
| ・梶本 香織 氏（学校運営協議会委員） | ・山中 俊子 氏（学校運営協議会委員） |
| ・小山 博規 氏（学校運営協議会委員） | ・太田 初 氏（学校運営協議会委員） |
| ・山内 光男 氏（学校運営協議会委員） | ・柴田 雅昭 氏（学校運営協議会委員） |
| ・神野 晃嘉 氏（学校運営協議会委員） | ・石川 孝行 氏（学校運営協議会委員） |
| ・青野 浩之 氏（学校運営協議会委員） | ・藤澤 俊洋 氏（学校運営協議会委員） |

2 学校関係者評価結果

平成31年1月25日実施

(1) 学校からの報告

ア 成果について

昨年に続き良好です。コミュニティ・スクールの教育効果が大いにあると考えられます。昨年度の実践をもとに更に工夫・改善を行ったり、以前に実施していた「歳末ふれあい運動」等の行事をリニューアルして地域ともにある学校づくりの一環としたりして、より充実したコミュニティ・スクールとしての活動となっています。また、教職員研修会や全県的なコミュニティ・スクール研修会において、本校生徒が地域とのつながりについてレベルの高いプレゼンテーションを行い、各方面から賞賛を得るなど、名実ともにコミュニティ・スクールの恩恵を受けた1年間であったように思います。

- ・ 保護者の結果を見ると、「生徒一人一人のよさを認め、伸ばそうとしている」「生徒は、地域の一員としてE S Dやボランティア等に進んで参加することができている」の項目で3ポイントも向上しています。これらは様々な機会を教育の場と捉えて活動するコミュニティ・スクールならではの効果と言えます。
- ・ 教職員の結果では、「生徒の学力は向上していると思う」で2ポイント向上しています。これは、昨年度から落ち着いた環境で学校生活を送ることができるようになった証と考えます。
- ・ 生徒の回答もほとんどの項目で昨年度よりポイントが上がるか現状維持を示しています。いごちのよい学校、いごちのいい地域であることで、生徒の満足感が得られているように思います。

イ 課題

ほとんどの項目で前年度よりもポイントがアップあるいは変わらずに高い状態であるものの、中にはダウンしている項目もあり、再検討していきたいです。

- ・ 「生徒の学力は向上していると思う」については、年々ポイントは上がってきてはいるものの、保護者・生徒・教職員ともに未だ平均が3.0を超えない状況であり、肯定的な回答が多くないという結果です。また、「生徒が計画的に家庭学習に取り組める工夫をしている」においても、保護者・教職員で平均2.6となっており、学力の向上には家庭学習の充実が欠かせないことが分かった上での回答と考えられます。来年度に向けて、教師の授業力向上・指導力改善はもちろんのこと、生徒の家庭学習の実態把握及び改善を最重要課題に置いて、小学校と連携・協働した取組を行っていきたいです。

- ・ 教職員の「いじめのない学校づくり・学級づくりに取り組んでいる」で3ポイントも下降しています。これは「人の生き方や将来の夢・希望について、しっかり考える機会や場を設ける努力をしている」「生徒は思いやりの心もち、友達を大切にしている」で2ポイント下がっていることとも関係します。理由の一つとして考えられるのは、本年度は人権・同和問題学習に学校を挙げて取り組んでいった事実があります。その過程において、教職員一人一人が真摯に自分自身と向き合い、学び続けていく中で、「まだまだできていない」と、理想と現実のギャップに悩み苦しんだ正直な気持ちがアンケート結果となって表れているように思われて仕方ありません。

(2) 質疑・応答・感想

ア 「生徒は充実した学校生活を送れていますか」「生徒は目標をもって学校生活を送っていると思いますか」において、生徒はかなりポイントが上がっているのに対し、教師が若干下がっている。これは、「生徒の頑張りを教師が認めていないのか？」思われたりはしないか？

→ そう受け止められる可能性もあるが、私たちが考える理由は、生徒一人一人の自己肯定感や自己有用感が高まってきた証拠だと考えます。コミュニティ・スクールとしての取組がじわじわと成果として生徒の充実感につながっていると感じます。保護者や生徒にこの結果を知らせるときには、その辺りを説明する予定です。

イ 「学校は、地域とともにある学校づくりを進めていると思いますか」において、教員のポイントが若干下がっているのはなぜか？ コミュニティ・スクールの取組に不満があるのか？

→ このアンケートの最高得点は4点です。平均3.6は決して低いものではありません。昨年度は3.8でしたが、コミュニティ・スクール元年の取組の成果を基に、今年は工夫・改善を加えていっているのです。教師自らが厳しめの評価をしている結果とも言えます。地域や保護者との連携・協働に関しては心より感謝しております。

ウ 昨年度も言ったが、アンケートは個人として回答しているのか、学校全体を見て回答しているのかによっても結果は変わってくる。個人として満足していても、全体を見て回答した場合には高くも低くも付けにくいと思う。だから、細かい上がり下がりを感じする必要はないと思う。

エ 生徒会選挙の在り方は、男女も比率をできるだけ合やすという教育的な配慮もあるのだろうが、基本は男女関係なく、一人一人に公平なチャンスがあっていいのではないだろうか。

→ 教育的な考え方から、原則、基本的な考え方や選挙の方法は変えずに行くつもりだが、状況によっては慎重に対応していきたいと思います。その際、公平性を第一に考えます。

全体として高い評価を得られたこと、そして、学校関係者評価では忌憚のない意見交換がなされたことは、作年度より本格的に導入したコミュニティ・スクールの効果が大いにあると考えられます。昨年度はこれまでの行事等を精選し、それぞれの目的・目標を明確にしたことにより、教師も生徒もやらされ感や負担感が減りました。そして、今まで以上に主体的に取り組み出したコミュニティ・スクール元年でしたが、本年度はそれを踏襲しながらも、更によいものを目指し、教職員一丸となって取り組んでいきました。学校には気が付くと地域の方が顔を出されており、学校の様子や地域のこれらについて気軽にコミュニケーションを取られて帰っていきます。そういう地域に開かれた、地域とともにある学校、それが泉川中学校となってきています。これからも新居浜市のモデル校としての役割を担っていかねばと切に願っています。